

白子川 源流通信

2009年12月 第28号

「白子川源流・水辺の会」の会報誌

- 水生生物調査で水質がわかる
- 第9回 白子川源流まつり 報告
- 新会員紹介
- 定例活動 報告
- 投稿「大泉に越した頃の話」その4



白子川さん

(その2)

ぶん 東谷 篤/え 萩原 和雄

白子川のほとりに草木を育て続ける

「ホトケドジョウふれあい広場の会」

塩崎 落子さん

(南大泉3丁目在住)

■火の橋の少し上流、通りの反対側に、「ホトケドジョウふれあい広場の会」が草木を育てているスペースがある。会が立てた「かわら板」には、きれいな写真付きで、その「ふれあい広場」に集う草花や昆虫たちが、実にやさしく、丁寧に説明してある。塩崎さんもその会のおひとりである。まず、その会の始まりをうかがった。■近隣の住民と行政側とのさまざまな交渉の末、現在の井頭公園ができた。出来上がった後も、この公園に関わっていきたいと考えた住民達により、この会が

できた。「最初は、雑草も生えてないような固い地面だったんです。殺風景な川のほとりをなんとかしたいと、公園課の了解の下、とにかく耕して草花を植えました」それから11年あまり。現在六家族ほどで活動している。■とにかく塩崎さんのお話には、草花や昆虫の名前がたくさん出てくる。「雑草」をそのまま自然状態で育てたい、鳥たちが運んでくる種が芽吹いて、都市型ミニ雑木林ができたらいいい、そう思いながら手入れをしている。手入れしながら、生き物たちの変遷を肌で感じているとも話す。「こんな狭い場所でも、去年まで盛んだったものが弱まり、今年は別なのが勢力を伸ばしてる、そんなこと感じるんです」■白子川のほとりに展開する草花と生き物の交流の場に人間の方が身を寄せ、体を動かし、見つめる。そんな会の活動は、毎月第2土曜日の午前に行われている。

定例活動 報告



ミスヒマワリとツマグロヒョウモン

白子川源流域の測定デー

測定地点	日	9/27	10/25	11/22
	項目	27℃	16℃	8℃
源流部	水深 cm	0	16	19
	水温 ℃	-	17	15
	pH	-	5.9	6.1
井頭橋	水深 cm	12	29	32
	水温 ℃	20	16	14
	pH	6.6	5.6	5.9

場所は、源流部、井頭橋、井頭橋と火の橋の中間地点。それぞれ川の東側、中央、西側の3点で測定。このほかに透視度、電気伝導度、COD、川幅、堰の流量なども測定しています。

上記データの数字は中央の値。-は、測定不能を示しています。

◆9月27日(日)曇

・雨が長らく降らず、源流部の中央部分は干上がりが出ていた状態だった。10月18日の白子川源流まつりまでに、水がもどるか心配された。(参加者14名)

生物の状況

動物 アメンボ・ミズムシ・アメリカザリガニ・ホトケドジョウ・フナ(600匹)・ノシメトンボ・シオカラトンボ・オオイトトンボ・モンシロチョウ・クロアゲハ・ツマグロヒョウモン・ニホンアカガエル・シジウカラ・カワセミ・ネズミ **植物** カワモスク・ミスヒマワリ

◆10月25日(日)曇時々雨

・川の掃除以外に、ガマとオオフサモを間引き、汚染防止のため、視界と水路を確保した。

・炭の浄化作用を確かめるため、みどり広場の竹林で手作りした竹炭を、下水道合流部に沈めてみた。効果が楽しみだ。

・南小5年の子どもたち5名が、オオフサモの袋詰めやゴミの運搬を工夫をこらして楽しそうにやってくれた。子どもは我々に真似できないようなことをやってくれる。感謝!(参加者11名)

特に見られた生物

アメンボ・フナ(500匹)

◆11月22日(日)曇

・カワセミの巣らしき穴を発見!場所は、ゴミ拾いの人ぞ知る。川掃除の楽しみが一つふえたかも。

・川の掃除時に、テレビ東京『出没アド街ック天国』の大泉学園特集で、白子川源流の取材があった。事前連絡で、胴(付)長(靴)正装(?)スタイルの会員も、ちょっぴりうれしそう!(参加者16名)

※P8に番組情報掲載

・ゴミの量:刈草26袋、ポリ袋等1袋、空き缶1袋

特に見られた生物

フナ(400匹) フナの数の変化が興味深い。

活動記録

8/26 『源流通信』第27発行	10/24 まちづくりセンター中間発表会
9/4 雨水貯留浸透技術協会訪問	10/25 定例活動(水質浄化で竹炭試し設置)
9/5 源流まつり実行委員会 竹炭・プレート・わら箸づくり (J-COM取材)	11/4 建設技研・道路研取組ヒヤリング
9/27 定例活動	11/14 新河岸川フォーラム参加 (会の浸透研資料一斉展示)
10/4 源流まつり第3回実行委員会	11/22 定例活動
10/18 第9回白子川源流まつり	11/29 「やってみよう水生生物調査 in 白子川」 新河岸川水系講座

in白子川

水生生物調査で水質がわかる

===源流で初めての本格調査===



11月29日(日)13:30-17:00、
新河岸川流域水循環市民モニター講座の5回目が白子川の源流域で開催されました。
講師は、水生昆虫談話会世話人、日本工学院専門学校バイオニクス科 金田彰二氏。



丁寧にすくいとるように採取

〈前半〉 川での生物採取
〈後半〉 室内で映像による解説



子供たちも興味津々

『川にはさまざまな生き物がすんでいます、とくに川底にすんでいる生き物たちは、長い時間かけてそこにすんでいますから、水質の状況がある程度は反映しているんです』(金田)



本格的な水生生物調査は会員の多くが初体験とあって、ワクワクの連続でした。

(菅沢 博)



新会員紹介 ☆ 浦口美代子



私は秋田県羽後町の小さな町「西馬音内」(にしもない)に生まれ15歳まで過ごしました。西馬音内は、米どころで「あきたこまち」と8月の旧盆に行く「西馬音内盆踊り」で有名です。小さい頃、私は盆踊りが大好きで、母に浴衣を着せてもらい口紅とおしろいをつけて踊り、参加賞の鉛筆一本をもらうのが楽しみでした。

私は、白子川の近くに住んで30年以上になりますが、季節ごとに変わる水辺を見てみると心が和みます。時々、白サギが飛来し、餌を探している姿は愛らしく美しいです。

私が「水辺の会」に参加した動機は、白サギや鴨など生き物がいつまでも白子川にいて欲しいと願う気持ちと会の皆様方の活動があるからこそ白子川が澄み、生き物が守られていることを知ったからです。

今まで、見ていた自分から体を動かして、少しでも役に立てたらと思い決心しました。白子川については、学ぶことの多い私ですが、楽しみながら活動に参加したいです。

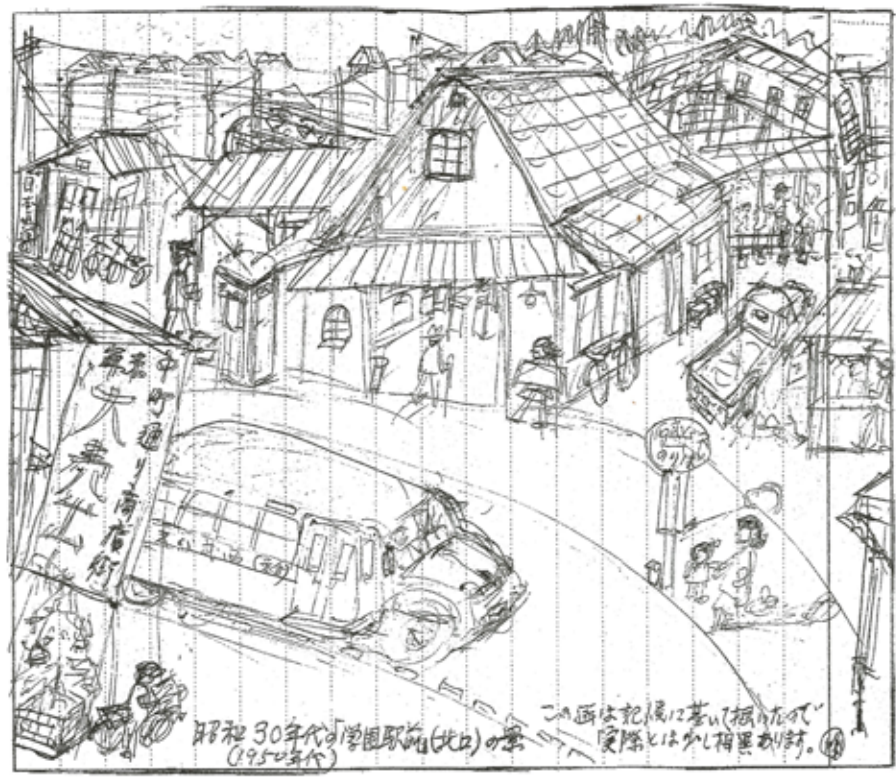
大泉に越した頃の話(その4)

池野 明男

130-D

大泉物語(近過去の)(一)

今、私は、むかし小樽村コヅリ(現在の南大泉学園町、西大泉、南大泉)と呼ばれた南大泉の北の一角に住んでおりまして、この地も「大・大泉」の範ちゆうだと自賛しています。小樽村は、明治二十二年(一八八九)の大合併で橋戸村と合併し、埼玉県新座郡樽橋村ツルハシとなりました。現今、練馬や石泉(大泉、石神井)地区は余り不案内でも、「大泉」といえば目白通りの終点で関越国道や外環道のジャンクションのある場所で地下環状道予定



並んでいました。この田園の小駅の駅前風景は子供達にとつてはそれがいかにも郊外の駅前らしく一〜二時間かけて都会からやつて来た小学生達は、これから行く田園の中の大農場公園(今地名で残る「都民農園」だと推量される)というのはどうゆう所かなあと楽しい期待に小さな胸をときめかせていました。

駅前駅前のまちを離れてボンネット型の木炭バスが走るや、広い未舗装の道を二、三人の教師に率いられた子供達の集団は、若山牧水の歌へインではないが「林を出でて林に入りぬ」というような風景そのままに、果てしない武蔵野のうち続く林と畑の間を、落ちている栗やドングリ(当時は貴重な蛋白質源)を袋一杯拾ったり、小枝や松ぼっくりを級友に投げつけ戯れながら先生に叱られたつ進んでいきます。かなり後年に見聞きしたところでは、その頃は武蔵野鉄道会社(現西武鉄道)の堤社長が各所に「学園都市」を標榜して宅地造成や郊

地の起点ということも誰でも知っているし、戦後から現在迄大衆文化の担い手であった東映撮影所(一名、トイサツ)を知らない人は余りないでしょう(撮影所の今昔の詳しいお話は次号にします)。また大泉はアニメ発祥の地でもあります。因みに大泉学園駅コンコースの一角、エキナカ喫茶店の外側に「アニメ將軍」(私なりの命名)が立つて居ります。皆さんも御存知ですね。

さて、私が初めて「大泉」という所と出合ったのは、確か昭和十七年(一九四二)か十八年の秋頃だったと記憶しています。それは東京・本郷(現文京区)の区立誠之国民学校(小学校)の校外授業(学習を兼ねた遠足)の行事でした。池袋の西武(武蔵野)線のユゲ茶と黄色の塗色の三、四両連結の電車が南大泉学園の駅に着くと「ハイカラな西洋館風」(今や古語)の駅の改札口を小さなリュック姿の二年生の小学生坊主共がソロソロ出て来ました。当時はこの郊外電車(これも古語に近い)に乗って四〜五十分はかゝったと想像しています。大泉駅北側はいかにも田舎の駅前風景で右側に先ず運送屋があり馬力や荷車の列、また田舎では珍しいハイヤー、タクシー(但しすべて代燃木炭ボイラー車)の店、駅前定番の茶屋の伊勢屋があり、ごくちっちゃな玩具店があったのを覚えています。また「駅前広場」の両側からすぐに桜並木となっていて、店々は桜の木の後ろに

外建て売り住宅(特色はグレンデハウス*)を建設していたがその形跡があつたかなかつたか、その当時、私を始め無邪気な小国民学童には判りつゝありません。

やがて地平線に続く広大な畑の真中に大木群(樺やクヌギが主体?)に囲まれた公園と大グレンデ(ドイツ語の農園)が出現して皆が「ワァー」とニ々五々駆け込んで行きます。樹林帯の中に、そこそこ大温室群や野菜ハウスや小さい芽葉の緑のジユウタンのような広い広い麦畑、陸稲の大タンボや大ポプラの並木は狭苦しい都会暮らし、しかも戦時中で子供ながらも大人の緊張状態に心理的に少なからず塞がれた学童たちにとつては、まさに本や絵で見る北海道や話に聞くデンマークやドイツ、フランスの農場風景もかくやと想像される景観と雰囲気は小さな心にもかなり印象的でした。東京近くにも、こんな所があつたのかと。(次号つづく)

*1 「からまつの林を過ぎて からまつ林に入りぬ」
「からまつは淋しかりけり 旅ゆくは淋しかり」

*2 若山牧水の「暮坂峠」(上州・信州に向かう峠)

*3 当時ドイツ第三帝国(今のドイツ連邦共和国)とは体制が全く違うナチスヒットラーが率いる独裁専制国家)の国民運動として都会の人間を田園に移住させる為の一軒の住宅と納屋と畑が付属している住宅。



「源流談議」小泉與七さんの迫力あるお話ぶり

各コーナー、ステージとも、
新企画、充実企画で、大いに盛り上がる！

- ①雨水浸透コーナーでは、雨水貯留浸透技術協会から借用した雨水浸透模型によって、今までより立体的に水循環を説明でき、子供たちも大い興味をもってくれました。
- ②「ポラン書房」の自然科学系の古本出店によってまつりが多彩になりました。
- ③「笹舟コーナー」は、笹舟作りの他にブンブン駒など懐かしい遊びが人気でした。

縄文遺跡が、この下に！

渋谷 英子

私達が住んでいるこの地に、何千年も前から人が暮らしていて、ずーっといろいろな時代を経た。田んぼや畑だった時代、広々した牧場だった時代、住居を作ったり、たまには小さな祭りもあったかも知れない。ずっとずっと、この小さな川のほとりに人々が集まり、暮らし続けてきたのだ。

縄文コーナーでは、遺跡発掘の掲示、火おこし実演、大勢の子供達の拓本作り(土器の破片の縄目模様を、和紙に写し出す)でにぎわった。

しかし一方、大人ファンが多いのも、このコーナーの特徴だ。「どこか別の土地の話をしているんじゃないんですよ。ここにいるこの人(鷺田さん)の家の下から、遺跡が出たんですよ」と私。「へえーすごいですねー。何だかロマンがありま

第9回 白子川源流まつり

2009.10.18

地域に、人に、支えられて

////今年も実り多い「源流まつり」////

実行委員のみなさんを初め、ステージで熱弁・熱唱くださった方々、応援して下さった友人知人のみなさん、みどり広場のみなさんたち、行政関係、地元商店・企業・個人等多くの方面のご厚意に感謝します。

来年は記念すべき10回目です。みんなで力を合わせて、いい汗流しましょう。

(菅沢 博)



雨水浸透コーナーの力作資料が、新河岸川流域フォーラムのイベントでも展示されました！参加した渋谷会員は、しばし自画自賛したとか。



すねー」と、しばし古代に想いをはせる。「ところで、こんなに遺跡があったという事は、この辺に川が流れていたはずではないですか？」と、その人。「そうです。それがこの川なんです！」と、目の前の白子川を指さして私。「え！こんなに小さい川？」という驚きの顔。何だかコトのような話だが・・・こんな不思議な会話が成り立つのも、源流まつりあってのことだ。

“みんなの白子川”のみんなが、人間だけでなく全ての生物だという話があったが、時間軸も考えると、ずっと大昔から現在、そして未来に続くみんなでもあるわけだ。

そして、この小さな白子川のように、私達人間は、もつともつと謙虚にあらねばと改めて思われた。



古老マルバヤナギの 子育て

山科 順



白子川源流・井頭橋傍に、「練馬の名木百選」・「練馬区の素晴らしい風景百選」に選ばれている樹齢百年近く程になるのだろうか、マルバヤナギの老木2本が、夏になるとお互いの枝が重なり、鬱そうと競い合っていて茂っています。

2年前の3月末頃老木の太い幹に、芽付きの細い枝がいっぱい出ており、地面に落ちていた小枝を拾い、この老木の子育てを試みようとして、先端を水栽培したら1ヶ月半ぐらいで細く白い根が下の方に出てきて、小さな葉が芽吹いてきました。葉茂りの様子をみて植木鉢に移植し、水やりに十

分気をつけて育てました。

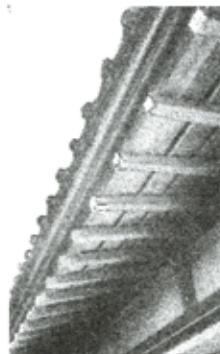
1年目の春までには植木鉢で、すくすくと育ち1.5mほどの高さになりました。そこで植木鉢から玄関前の花壇の土中に移植したら、2年目の今年の夏にはもう高さ2mを越え、たくさんの小枝に葉をつけ、ぐんぐんと垂れ下って茂ってきました。

雨降りの時には特にヤナギの名が付いているように、しなやかな枝が一層垂れ下がり、古老マルバヤナギの若き日の姿に想いをよせて、風情を楽しむことが出来ました。

雨だれ

また、ふるさとのことを思い出している。小学生のころ、雨が降ると、静かな農家の縁側で猫とふかし芋を食べながら、いつまでも雨を眺めているしかなかった。軒先から庭に落ちる雨音はリズムカルで気持ちのいい音だった。そういえば、兄弟でよくこんな歌をうたっていたっけ。

♪雨だれが落ちている
窓の外の軒端から
見ているときれいだな
水晶の玉だね



時代が変わり、「生活改善運動」や「言葉の浄化運動」はいらなくなってきた頃に、多くの家が改築され、今では当たり前の「雨どい」が設置されるようになった。さり気ない「雨どい」だが実は、屋根に降った雨の集中処理(まとめて下水へ流し込むシステム)の走りとなったのではないかと思う。

きっと、あの頃から湧水は減少しはめ、雨だれの音も消えていったのだろう。

*

介護ベッド生活が5年になる故郷の母は92歳。痴呆の中程だが、もしもその母に、昔の雨だれのことを話したら、笑いながらうなづいて、思い出したふりをしてくれるだろうか…。

菅沢 博

メジロ



インターネットより転載

おなじみの小鳥のメジロを取り上げました。秋になり、初夏までよく見かけます。川沿いの立ち木にもつがい数が数羽の群れで、チーチュールといいながら囀っているのを聞きます。花の蜜が好きなので、さざんかの花に來たりします。梅の花は特に好物のようです。

大きさは12cm程度で、スズメより少し小さく、国内産の小鳥としては3番目に小さい種類となります。体全体の色は黄緑で、目の周りが白い輪になっているのが特徴です。

■今後のスケジュール

12/27 13:00～定例活動

「年末年始メッセージ」取りつけ
竹キャンドル（門松づくり）

1 / 9 13:00～「年末年始メッセージ」取りはずし

1 / 24 13:00～定例活動

2 / 28 13:00～定例活動

3 / 28 13:00～定例活動

※3月末までの予定は、①町なか表示板設置、
②隣の地域との「合同川そうじ」（まちづくりセンター助成金対象事業）です。

トピック

白子川源流がテレビに!!

テレビ東京『出没!アド街ック天国』で、なんと水辺の会が紹介されるかも?!

11月某日、「大泉学園特集」ということで白子川源流が取材をうけました。もし上位にランキングされたら、会の活動風景もうつるはず…。放送は1月23日(土) 21:00～です。期待しましょう!!



会員募集中

白子川の水辺環境を良くするために
一緒に活動しませんか。

正会員…年会費 2,000 円 世帯会員…年会費
3,000 円 法人会員…1口 2,000 円以上
通信購読会員…年会費 1,000 円 学生は無料

http://www.geocities.jp/sirako_river/
（「白子川源流・水辺の会」と検索）

編集後記

▼前号、カブトムシのつづき。生まれた幼虫 48 匹。調べると、成虫になるまでに 1 匹につき 30 の腐葉土を食べると。「これは大変!」近所の友に数匹ずつ分けて、今 30 匹。軒下の特設幼虫アパートで春を待つ。(さ)

▼11月の定例活動、井頭橋下あたりで水質調査中、フナの子が、わたしの胴長をすり抜けていった。先々月見たときより確実に大きい。上を通りがかかった方も、柵から「見えたわよ!」と声をかけてくれた。うれしい瞬間です。(け)

※この会報は年3回発行しています。

発行 白子川源流・水辺の会
編集 東谷 篤/東谷貞子/菅沢恵子
題字 宮本沙海
発行部数 750 部
代表 菅沢 博 03-3923-8430
練馬区南大泉 1-10-5
suga-johas@icm.home.nw.jp